

医療機関における新型コロナに関わる経営影響アンケート

道内医療機関のうち外来で6割、入院で5割が減収 6月診療実績

人件費削減検討5割以上、衛生材料確保・診療報酬引上げ・PCR検査拡充の要望多数

私ども北海道医療労働組合連合会（略称：道医労連）と北海道社会保障推進協議会（略称：道社保協）は、新型コロナ感染の影響による医療機関の経営実態と、必要な衛生資材の確保や財政支援等、国や行政に支援を求める必要性を明らかにし、国や自治体等への要望を行い医療機関への支援を広げていくことを目的として、北海道内の医科医療機関3300か所へのアンケートを実施し、619か所からの回答をいただきました。

1. 経営への影響、6月も続き悪化

外来収入の減少した施設は59.5%、単純平均で11.2%の減収。入院でも52.4%の施設で減収となり単純平均で5.2%の減収となっています。新型コロナ感染および疑い症状の患者受け入れの有無にかかわらず、減収となっている実態が明らかとなりました。また、自由記載から少なくとも3か所の医療機関が閉鎖を検討していることがうかがわれます。

2. 経営対策では人件費削減が多数

賞与停止・削減の実施や検討が24.6%、昇給停止と賃金削減合わせて18.0%など、医療現場を支える医師や看護師などスタッフの人件費削減を行わざるを得ない実態となっています。

3. マスクや防護具、消毒液などの衛生材料では不足が続く

充足していると回答したのは、マスクで47.5%、防護具で30.0%、消毒液で40.1%にとどまり、依然として衛生材料が十分に確保できない実態が続いています。また、価格高騰への対策を求める意見も多数寄せられています。

4. 国・自治体への要望

衛生資材の確保を求める意見が58.0%、次いで診療報酬引き上げ53.6%、PCR検査体制の拡充42.5%と続きました。安全な医療を行うために衛生材料を確保し、収入減少と費用増への対応としての診療報酬引き上げ、検査の必要な患者への検査体制を拡充してもらいたいという医療現場の実態が反映する結果となりました。

私たちは、アンケート結果を踏まえ、北海道へ医療機関への対策を追加で行うよう求める要請書を、本日、記者会見後に提出し、道民の命を守る医療機関と医療従事者を支える施策を行うよう求めてまいります。

北海道社会保障推進協議会
会長 堺 慎
北海道医療労働組合連合会
執行委員長 鈴木 緑

実施期間	7月17日～8月17日（8月5日〆切後到着分も集計）
対象施設	北海道内の医科医療機関3300施設
調査方法	郵送により依頼、FAXにより返送
調査目的	① 新型コロナ感染の影響による医療機関の経営実態を明らかにすること。 ② 必要な衛生資材の確保や財政支援等、国や行政に支援を求める必要性を明らかにすること。 ③ アンケート結果を公表し、国や自治体等への要望を行い、医療機関への支援を広げていくこと。

集計数

619

 回収率

18.8%

1. 基本情報

(1) 病床数

0	1～99	100～199	200～299	300～399	400～	無回答
452	96	36	12	8	12	3
73.0%	15.5%	5.8%	1.9%	1.3%	1.9%	0.5%

(2) 設置主体

自治体	公的団体	民間	無回答
78	15	504	22
12.6%	2.4%	81.4%	3.6%

(3) 新型コロナ感染者及び感染疑いの患者の受け入れ

外来	受け入れあり	受け入れなし	無回答
	164	423	32
	26.5%	68.3%	5.2%
入院	受け入れあり	受け入れなし	無回答
	25	139	0
	15.2%	84.8%	0.0%

(4) 立地圏域

①道南	81	13.1%
②道央	336	54.3%
③道北	90	14.5%
④オホーツク	33	5.3%
⑤十勝	39	6.3%
⑥釧路・根室	25	4.0%
無回答	15	2.4%

2. 経営への影響と対策

(1) 6月患者数・収入の増減

外来患者	減少	増加	変わらない	無回答
	410	40	133	36
	66.2%	6.5%	21.5%	5.8%

減少最大	減少平均	増加平均	総平均
81.0%	-19.6%	11.7%	-13.0%

コロナ患者（疑い）受入あり -13.6%
 コロナ患者（疑い）受入なし -12.7%

外来収入	減少	増加	変わらない	無回答
	368	73	137	41
	59.5%	11.8%	22.1%	6.6%

減少最大	減少平均	増加平均	総平均
84.0%	-20.4%	14.3%	-11.2%

コロナ患者（疑い）受入あり -10.3%
 コロナ患者（疑い）受入なし -11.5%

入院患者	減少	増加	変わらない	無回答
	92	24	41	7
	56.1%	14.6%	25.0%	4.3%

減少最大	減少平均	増加平均	総平均
100.0%	-16.9%	20.9%	-6.7%

コロナ患者（疑い）受入あり -12.8%
 コロナ患者（疑い）受入なし -5.2%

入院収入	減少	増加	変わらない	無回答
	86	32	43	3
	52.4%	19.5%	26.2%	1.8%

減少最大	減少平均	増加平均	総平均
100.0%	-16.4%	18.0%	-5.2%

コロナ患者（疑い）受入あり -7.7%
 コロナ患者（疑い）受入なし -3.7%

健診等件数	減少	増加	変わらない	無回答
	160	23	184	252
	25.8%	3.7%	29.7%	40.7%

減少最大	減少平均	増加平均	総平均
100.0%	-37.5%	56.8%	-12.8%

コロナ患者（疑い）受入あり -17.1%
 コロナ患者（疑い）受入なし -10.8%

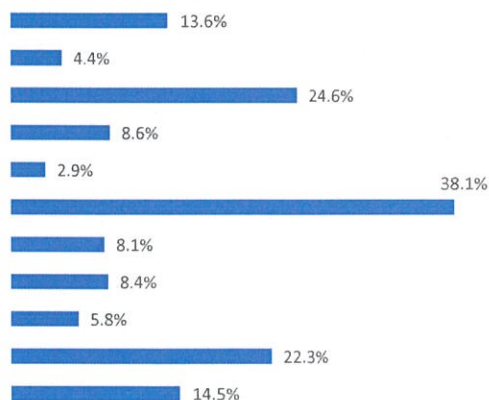
健診等収入	減少	増加	変わらない	無回答
	161	24	180	254
	26.0%	3.9%	29.1%	41.0%

減少最大	減少平均	増加平均	総平均
100.0%	-38.1%	56.6%	-13.1%

コロナ患者（疑い）受入あり -18.2%
 コロナ患者（疑い）受入なし -10.7%

(2) 今後の経営対策として実施・予定・検討していること（複数回答）

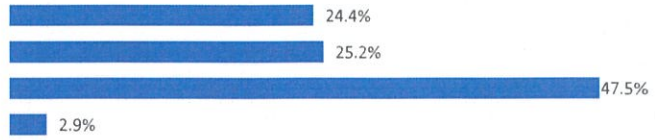
①昇給停止	84	13.6%
②賃金削減	27	4.4%
③賞与停止・削減	152	24.6%
④人員削減	53	8.6%
⑤非正規化・委託化	18	2.9%
⑥特に対策はない	236	38.1%
⑦その他人件費対策	50	8.1%
⑧診療制限を通常に戻す	52	8.4%
⑨診療の縮小・廃止	36	5.8%
⑩国・自治体への助成要請	138	22.3%
⑪その他経営対策	90	14.5%



3. 衛生材料の充足状況

マスク

足りない	151	24.4%
なんとも言えない	156	25.2%
足りている	294	47.5%
無回答	18	2.9%



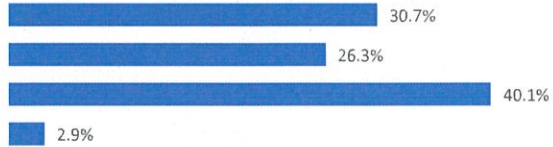
防護具

足りない	190	30.7%
なんとも言えない	199	32.1%
足りている	186	30.0%
無回答	44	7.1%



消毒液

足りない	190	30.7%
なんとも言えない	163	26.3%
足りている	248	40.1%
無回答	18	2.9%



4. 国・自治体へ要望したいこと（複数回答）

①診療報酬引き上げ

332	53.6%
-----	-------



②前年収入差額の補填

230	37.2%
-----	-------



③職員への継続的な手当支給

250	40.4%
-----	-------



④職員確保対策

71	11.5%
----	-------



⑤PCR検査体制の拡充

263	42.5%
-----	-------



⑥衛生資材の確保

359	58.0%
-----	-------



⑦その他

36	5.8%
----	------



無回答

17	2.7%
----	------



医療機関における新型コロナに関わる経営影響アンケート

基本情報		困ってこと (記述部分)
規模	地域	【経営難・経営見直し問題】
無床診	道央	気力がなくなり、もうやめようかと考えている
無床診	道央	今の現状があと半年続くようなら事業継続は不可能はなりそうである。
無床診	道央	コロナが終息しない限り経営に見込みなし。閉院考慮中。
無床診	道央	経営が非常に厳しく不安です。
無床診	道央	当方小児科ですが受診控えと登校・登園の制限による伝染病の減少で受診者数の大幅減が続いています。この状態があと半年以上続くと賃金削減、人員削減、閉院の検討が必要となりそうです。
無床診	道央	このままでは経営の継続が困難です。コロナ長期化により医療(コロナ対応・非対応)がどんどん疲労してゆきます。まずは手続きの簡単な前年度と同じ収入になるような補助金、PCR拡大、検査キッド、保護服(十分な)が必要です。医療を持続させなければ負のスパイラルが確実におきます。
無床診	道央	患者減で収入が減っている中、消毒液、マスクなど感染対策に費用が掛かり、厳しい経営状況である。
無床診	道央	経営悪化
無床診	道央	収入減少しても国税・地方税の定期的引落し、(借入金返済-銀行)も同様、経営の行詰まり。
無床診	道央	経営的にも不安。
無床診	道央	6月は診療抑制していた患者様が我慢できず解除と同時に来院したので前年並みでしたが、5月は40%減、4月は35%減、3月は23%減と経営状態は著しく悪化。家賃など固定費が重い。
無床診	道央	当院は立ち上げ時期のため前年比では、患者数・収入は増えているが、もっと増えることを見通して雇用を行ったため、人件費が増加しており収益は悪化している。運転資金が減少し、借入を検討しているが、補助金等も前年比減でないと思えず、苦慮している。
無床診	道央	先が見えないこと。衛生面は(材料や消毒、政争の行為)の懸念をいつまでしなければならぬのか。今はまだ踏みとどまっているが、今後収益が落ちた時の心配が常にある。
病院	道央	第3波の到来に伴う診療体制と経営への影響
無床診	道北	今後必要な経費が予測できない。6月には回復したが、3月~4月の落ち込みが激しい。感染が拡大すると、再度収支が悪化すると予想。
有床診	道北	自治体の町長にコロナ対策予算を申請しても断られ、十分な対応ができない。旭川市で診てもらえばよいと言う。愚かな考え。もしコロナが入ってきたら、クリニックは倒産します。そうならないために助成してほしいのだが、全く対応しない。赤字も補填しない。解職してほしい。医療福祉に対して考えがなさすぎ。
病院	道北	平均在院日数21日を遵守。3月4月5月は記事しい状況であったが、6月は若干戻る
無床診	道南	4月5月は昨年の20%減でした。6月は戻ったものの、今後の見通しが立ちません。
有床	道南	収入減の一方、資材の高騰等による費用の増大
病院	道南	対策の長期化を考えると精神科の外來入院単価は低いため確実の経営の悪化となる
病院	道南	外來制限中の診療報酬大幅減及び、診材の単価引き上げによる経費増が影響し、切迫していること
病院	道南	コロナ感染症対策により、経営計画の策定が厳しく、見通しが立たない。
無床診	十勝	現在の状況が長期化すると、収入の減少が経営にも影響を与えると考えます。収入に予測ができず経費の見直しも必要になってくるよ考えます。
無床診		長くやってきた訪問診療でのいである。これがなければ全くとお手上げと思われれます。

医療機関における新型コロナに関わる経営影響アンケート

基本情報	困ってこと（記述部分）
------	-------------

規模	地域	【受診抑制】
無床診	道央	受診抑制が強く、継続的に受診できず。糖尿病、ぜんそくなどの管理が十分にできません。
無床診	道央	長期処方希望が多い。電話での処方希望が多い。
無床診	道北	患者の受診控えで薬がなくなってしばらくしてから来院がある
無床診	道北	高齢者の受診抑制（電話最新での来院促しや処方せん郵送で対応）

規模	地域	【患者減・収入減】
無床診	道央	患者の受診者数が少ない（収入が少ない）
無床診	道央	来院される方が少ないため、保険収入が減少している。
無床診	道央	外来患者の受診控え
無床診	道央	患者の受診抑制が強く患者が増えない
無床診	道央	保険患者数の減少。収入の減少。
無床診	道央	患者数が少ない。収入減である。
無床診	道央	来院患者の減少。
無床診	道央	収益の減少
無床診	道央	患者減
無床診	道央	患者減少のため、収入減。（コロナ対策でマスク、フェイスガード、消毒液の支出が多くなっています）
無床診	道北	受診控えのため、患者数減による収入の大幅な減少
無床診	道央	透析医療機関であるが、4月から診療報酬引き下げとコロナによる外来診療縮小による収入減が重なったこと
有床診	道央	外来患者が減ってきていること
病院	道央	受診控え、中断などによる大幅患者減に伴う経営悪化
病院	道央	外来患者減による減収
病院	道央	外来の受診率の低下が現在も影響している
病院	道央	新型コロナに対する不安による受診控えに伴う収入減
無床診	道央	今回のアンケートは6月分に対してであるが、5月診療分については、6月よりも患者数、保険収入とも5%近くの減少であった。
無床診	道央	4月5月と減った分、6月に増加しました
無床診	道央	収入の減少分が戻せない 6月増えているのは3から5月検査を受けていない人が来てくれているからで本来の増ではない
病院	道央	6月より4.5月の方が落ち込みが大きい
無床診	道央	年同月で比較されるが当院は昨年5月に新規開設した診療所のため、前年比では売り上げが増加となってしまっている。ただし、直近の売り上げ（コロナ前）と比べると激減している。
無床診	道央	開業したばかりですが、コロナの影響もあり、なかなか患者が増えず、今後の支払いの不安も出てきます。
無床診	道北	社保は徐々に回復しつつあるが、高齢者の出控えの影響はまだまだ強く、国保には回復の兆しが見えない。
無床診	道北	感染の恐れから、患者が減っている。風邪の症状がある方の診察を行っていない。
無床診	道南	外来受診の減少
無床診	道南	外来患者数が前年と比較すると少なくなっている。
無床診	道南	収入減が困っています。患者さんの受信数が延べにして2割くらい減っています。うちはまだマシですが、これからもこの状況が続くと経営が厳しくなってきます。コロナの検査（簡易なもの）が、インフルエンザの検査のように気軽にクリニックでできるようなキットの開発を1日でも早くお願いしたいところです。*当クリニックは内科です（呼吸器内科専門です）
無床診	道南	患者数の減少 これに尽きる
無床診	道南	診療報酬の減少
無床診	道南	不急の外出自粛のため受診者数が激減。
病院	道南	患者の受診控えの傾向が長期化している。幾分の改善はみられるものの前年度並みには戻らない。結果として入院につながらず、収入減の大きな要因となっている。

医療機関における新型コロナに関わる経営影響アンケート

基本情報		困ってこと (記述部分)
病院	道南	患者の受診控えが予想以上に長引き、大幅に収入が減少している。
無床診	道東	6月は患者数は戻ってきたが3月から5月の減のほうが大きいです
無床診	十勝	密は避けるとしても、患者様が来院してくるのを拒むことはできない。その結果、密になってしまう。
無床診	十勝	6月は患者数、保険診療収入ともわずかな減となったが、4、5月は2割、7月は16%の減になっている。慢性疾患患者の1か月毎の投薬が2か月、3か月となっていることが減収の一因。
病院	十勝	コロナの不安から来院の自粛が続いており、外来通院数が伸びていかない
病院	十勝	6月の単月では前年同時期が低調だったため経営悪化が見えづらいが、第14半期で見ると大幅なマイナス。むしろ6月は全職員の奮闘で回復基調となった月である。
病院	道北	6月単月での比較では増収となっているが、緊急事態宣言解除前の減収については年度内で同等にすることは難しい状況。6月増収は一時的な増収ととらえている。
無床診		更生医療等の申請の自動延長に伴い、2～3年間、診断書発行にかかる収益が減少することが明らかであり、数年は収益減少がすでに見込まれている。

規模	地域	【支出増】
無床診	道央	感染対策によるコスト増え、報酬減
無床診	道央	予防のために在宅ワークなどをしていますが、家庭にシステムを準備する費用が結構大きくかかるため、各個人にゆだねている。本当は法人でフォローしたいところ。
無床診	道央	院内清掃にかかわる諸品、薬剤、感染防止のマスク等の経費
無床診	道央	衛生材料の確保や出費がかさむこと
無床診	道央	衛生材料の値上がり
無床診	道央	新型コロナ感染予防のための業務量増加。経費増加。
無床診	道央	収入減による固定費（賃借料・光熱費・社会保険）の支払い。
有床診	道央	衛生材料の供給は安定してきているが価格が値上がりしており経営の大きな負担となっている。
有床診	道央	衛生用品の出費が多い
病院	道央	衛生材料の価格高騰、使用量増加による経費増
病院	道央	診療材料の納品が不安定から価格高騰
病院	道央	コロナ対策で人員増、感染対策の費用の増大
無床診	道北	マスク等衛生材料の入手に時間がかかり、金額も高騰している。
病院	道南	疑似症患者受け入れのための病床確保、検査体制、面会制限等の対応に労力及びコストがかかっている。
無床診	道東	衛生材料について、正規の御業者に注文すると、納品まで時間がかかるため、費用が増加している（インターネット等で購入）
病院	十勝	衛生材料の価格高騰
無床診	オホ	患者の受け入れに対し、診察室への動線確保の工事、衛生材料の値上げ、入荷の遅れ等、収入減に追い打ちをかける支出
無床診		院内衛生管理の資源がかかる（時間とお金）。
無床診		感染対策に関わる経費の支出の長期化等。

規模	地域	【資金難】
無床診	道央	当初の見込みより患者減少が続くそうなので、このままでは資金繰りが厳しくなりそう。
無床診	道央	経営のためには一定数の患者が必要であるが、感染拡大防止のためには人数を制限しなければならない。医療を維持するために身を削らなければならない状態だ。
無床診	道央	収入減により職員の賃金を上げることが困難であること
無床診	道北	患者数減による収入の減少に歯止めがかからない反面、感染拡大防止のための衛生材料の購入による費用が増加しており、経営を圧迫している。
無床診	道南	人件費を支払えない（借り入れで対応している）
有床	道南	夏賞与支給のために融資受けましたがコロナ第2波が来しまうと冬の賞与が心配です。
無床診	十勝	今後減少が継続された場合の資金不足